

統合 58 号

【戦後 80 年誌】



統友会の沿革

昭和 36 (1961) 年 8 月 統幕学校校友会として発足

(統合幕僚会議の附置機関として統幕学校設置、課程教育開始)

平成 3 (1991) 年 30 周年 統幕学校校友会から統友会へ改称

(統幕学校創立 30 周年)

平成 23 (2011) 年 50 周年

(国際平和協力センター国際平和協力基礎講習開始)

令和 3 (2021) 年 60 周年

統合誌電子版の作成・配信開始、郵送からメール案内への移行開始

令和 5 (2023) 年

統合誌電子版配信への完全移行、各行事等のメール案内へ完全移行

令和 6 (2024) 年

クラス幹事制度の廃止、会員管理を統友会事務局で実施

令和 7 年 12 月

統友会事務局

傘寿の挑戦

1 山下元陸将の発信活動の紹介

統幕学校第27期一般課程出身で、平成13年に定年退官された後もその豊かな経験と知見を活かし、各種NPO活動や情報発信を通じて社会に貢献し続けておられます。

とりわけ、80歳を迎えようとする今「傘寿の挑戦」と題し、電子書籍の刊行や動画配信など、新たな手段を駆使して多くの問題提起を行っているその姿勢には、敬意と共感を抱かざるを得ません。

本稿では、山下氏の近年の発信活動を、その主な柱である電子書籍と動画シリーズ「輝坊の放談」を中心にご紹介いたします。

2 電子書籍の発刊

山下氏は令和7年初頭、これまでに執筆・蓄積してきた小論や講義内容をまとめ、Kindle版電子書籍として6冊を発刊されました。これらは、自衛官としての経験、防衛・安全保障、防災、戦争史、地域社会との関わりといった多岐にわたるテーマを網羅しており、一貫して「国家とは何か」「日本人はいかに歴史と向き合うべきか」という視点が貫かれています。

●『先の戦争とは何だったのか（大東亜戦争メモランダム）』

A4一枚に1話完結でまとめた「メモランダム形式」による戦争論集。

政治・軍事・外交・人物評価など幅広く扱い、戦争の実像や誤解に真正面から向き合う姿勢が特徴です。先の大戦を通じて日本の国家戦略、組織文化、国民性に何が問われたのか、数々の問いかけを提示しています。

●『富士紀行 — 小山町須走を定点として』

富士学校勤務時代に綴ったエッセイ集。霊峰富士を仰ぎ見ながら日々の生活・訓練の合間に得た所感を、地域の風土・人情・文化とともに描写しています。20年を経てなお色褪せぬ感動がそこにあります。

●『朔東 — 道東見てある記』

第5師団勤務時代に道東地域を巡り、自然・風土・温泉・北方領土問題など、感動を覚えた事象を写真と文章で記録。北海道の食や文化、イベントや歴史への深いまなざしが光ります。

●『防災と三助』

「自助・共助・公助」の理念に基づく防災論を体系的に整理。山下塾での講座をベースに、最新の災害対策・法改正・避難支援体制等の動向にも触れており、現場目線かつ政策的な視野も感じさせます。

●『国家の骨格を問う』

国家戦略・防衛政策・危機管理・リーダー論を論じた集大成的論考。安保三文書や憲法改正論まで踏み込み、現代日本に求められる「国家の骨格」のあるべき姿を提起しています。

●『忘れ去られしもの』

戦没者の慰霊・顕彰・遺骨収集、戦争犯罪、歴史認識をめぐる問題に真正面から取り組んだ意欲作。戦後80年を前に、国家として向き合うべき「忘れられた課題」を静かに、しかし強く訴えています。

3 YouTube「輝坊の放談」の挑戦

電子書籍に収めた内容の中から通底するテーマを抽出し、さらにわかりやすく伝える手段として、YouTube上に「輝坊の放談」チャンネルを開設。

アバターによるナレーション、読み上げソフト、スライド画像、BGM等を組み合わせ、10分間の動画に仕上げ、定期的に発信中です。

パソコン操作に不慣れな中、悪戦苦闘しつつ制作に取り組んだ苦労もまた「傘寿の挑戦」の一部といえます。

YouTubeにとどまらず、Instagram、Facebook、X（旧Twitter）などのSNSや「まぐまぐ」メルマガでも情報発信を行い、多方面への波及と共感の輪を広げています。

3 電子書籍と動画の入手方法

- 電子書籍：Amazon Kindle ストアにて各書籍名で検索
(Kindle アプリが必要、各巻 100 円)
- YouTube：@輝坊の放談
- メルマガ：まぐまぐ ID=0001690586
<https://mypage.mag2.com/entry/UserRegistTerms.do>
- 発信状況一覧：<http://yamateru.stars.ne.jp/daitoua.html>

4 最後に

山下氏の一連の発信は、単なる個人の回顧録ではありません。

むしろ、戦後日本が見過ごしてきた歴史や課題に改めて目を向け、今を生きる私たち一人ひとりに問いを投げかけるものです。発信活動を通じて、日本という国の原点と未来を見つめ直す契機となれば幸甚です。

【統合 58 号編集委員】